

# 【選択科目】

## 麻 酔 科

麻醉科：救急部門の必須研修もしくは選択研修

指導医 麻醉科部長（手術管理部長）、麻醉科医長、指導医の資格のある麻醉科医

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の麻醉科医、および臨床経験7年以下の麻醉科医師

指導者：手術室師長、手術室看護師

### ●一般目標（GIO）

全身麻酔の基本的な流れを身につける。

気管挿管技術を身につける。気管挿管技術の習得に最も力を入れる。

当院麻酔科では、気管挿管技術の習得に最も力を入れる。この技術はすべての診療科の医師にとって必須の技術であるからである。

### ●行動目標（SB0 s）

手術前評価と麻酔の準備。

麻酔器と麻酔薬の準備。

静脈確保等の基本的手技。

モニタリングシステムの理解。心電図 血圧計 パルスオキシメータ 脳波モニタ

体温モニタリング 呼気終末炭酸ガス分圧 動脈圧モニタリング

全身麻酔の実際の流れを理解する。

マスク換気技術を学習する。

気管挿管技術の詳細を学習する。喉頭展開にはマックグラスを標準として採用する。

### ●方略

電子カルテを手術前に参照し、麻酔患者について調べる。

担当患者の麻酔法を調べる。麻酔上の注意点をピックアップする。

末梢静脈路確保技術に関して習熟する。

全身麻酔の際に行われる気管挿管技術に習熟する。全身麻酔全体の流れについて習熟する。

<週間スケジュール>

朝8:30に麻酔科医控室に集合し、ミーティングに参加する。

担当症例の麻酔科医に麻酔の詳細について聞く。不明な点の確認。

担当症例終了後、指導医に注意点・改善点等の確認

基本的に手術室内のみでの研修

### ●評価

- ・病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・評価者は、指導医、指導者が行う。
- ・研修医からの評価も施行する。

## ●参考資料

### <基本的手技>

- 1) 末梢静脈路確保
- 2) マスクによる用手換気 下顎挙上 頭部後屈
- 3) 気管挿管手技 開口手技 クロスフィンガー法 オトガイ法
- 4) 全身麻酔の維持 気管挿管による調節呼吸  
人工呼吸器の設定 換気量 換気回数 呼気終末炭酸ガス分圧
- 5) 全身麻酔時に使用する薬剤について  
吸入麻酔薬 静脈麻酔薬 筋弛緩薬
- 6) 麻酔の覚醒過程 覚醒の確認 自発呼吸の確認
- 7) 抜管操作
- 8) 帰室時の注意点を学習する 患者覚醒度の判定